

2022.2月

銀の汗 Again

A面

東京大学情報基盤センター施工

2022年新春早々のUN施工は最高学府、赤門で有名な東京都文京区にある東京大学敷地内の「情報基盤センター」焼肉の赤門しか知らないオペレーター達の中、東京大学の施工は、UNマシンオペレーターの中でリーサルウェポンと呼ばれる江縫オペレーターの出番となりました。

$E=mc^2$ $f(x)=x^3+2x^2-3x+4=0$ <江縫OP

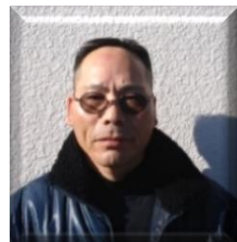
万が一現場で理工学部の人間がウレタンの流量等の数式を話したしても、リーサルウェポンなら一瞬で鎮圧できる体制です。



東大赤門



立派な看板



リーサルウェポン: 江縫OP

髪型は北酒場

S54年自動車学校卒業

1,500㎡を素早く終えたりピーターの(株)美浜工業様は何時もと変わらないUNマシンのスピードを含めたパフォーマンスに、ご満足を頂きました。是非、次の施工は東京芸術大学をお願い致します。



(株)美浜工業の皆さん

ビフォー・アフター・そしてあの頃



ひばりが丘パークヒルズ【ビフォー】



ひばりが丘パークヒルズ【アフター】

東久留米市の団地内駐車場(AD-H40FT工法)をUNマシンで素早く施工。ゴミもほとんど出ず、施工も早く終わることができ地域内の住民の方々にご不便をかける時間も少なく済みあつという間にビフォー・アフターとなりました。



【ビフォー】今から25年前の1997年、バングラデシュで行われたカバディの遠征国際親善試合で、日本代表はなんと大金星でバングラデシュを破り当時のアマチュアカバディ協会が発行する新聞に掲載されました。写真のタイのブイアン・スポーツ大臣と握手をしているのが若かりし、ふさふさの松田OPです、鍛えた逃げ足は現在も活かされ上司からのヤバイ話しには今も素早く逃げる事が出来ます。カバディ〜

【アフター】25年たった今もカレー好きアジアンティストの香りを漂わせながら、現場を終えた施工店様と握手する男に成長しました。

2022.2月

銀の汗 Again

B面

ビフォー・アフター・メンテ編



UNマシン7号機の心臓部ロータリーポンプは必ず定期的に細部分解し特殊溶剤で一晩どぶ付けし細かいゴミを清掃して再設置致します。それを怠ると材料の漏れが発生致します。飛行機もネジ1本の緩みが原因で落下する場合があります。細かい部分のメンテナンスが重要で各オペレーターはメンテノウハウも積み上げてある面、実施工を行う事よりも神経を使いながら清掃を含めたメンテナンスに汗を流します。

オペレーター現場レポート(留学生インタビュー)



(株)前田工業様: 右クエンさん
ベトナムに来るなら是非ハノイとホーチミンへのこと

作業中のクエンさん

UN作業ドラムポーターも体験して頂きました

現場名	山喜工場(横浜市金沢区)	施工日	2021年11月20・27日
施工店	(株)前田工業 様	工法	タフガイ工法

山喜工場でのUN圧送では、働きながら日本の防水を学ぶベトナム人留学生のクエンさんと出会いお話を伺う事が出来ました。

日本に来て4年のクエンさんは、もともと日本文化に興味があり、地元で留学生の募集を知りすぐに応募されました。当初は言葉の壁にぶつかりコミュニケーションに苦労されたとのことですが、前田工業様にお世話になりながら徐々に日本の生活に慣れることができたそうです。日本とベトナムの共通点をお聞きすると、仕事に対する真面目さと責任感の強さを挙げられていました。(そして女性が優しくきれいだと・・・)

将来的にはベトナムに帰って日本で学んだ防水施工技術を伝えていきたいとのことでした。初めてUNマシンを見た感想は、ただただスゴイと、早くて楽で安心で、驚きましたとのこと。そこで私は「将来ハノイかホーチミンで現場あれば行きますので・・・」と約束しました。インタビューを終えて、私もクエンさんに負けない様に向上心をもって仕事に取り組みたいと改めて思いました。

PS: 江縫OPが夜の東南アジアのお店詳しいそうですので先輩にイロイロ聞いてみようと思いました。マンペイライ (曾根OP)

UNマシン.COMサイトが起ちあがりました www.un-machine.com yahoo検索ワード第1位(ウレタン・省カ化など)
ブログ銀の汗にUNの活動状況一部掲載しています 銀の汗バックナンバーも掲載 [UNマシン](#) にて検索

【sweat of silver】

昨年末生まれてはじめて絵の展示会に出展しました。絵のサークルに入って約1年、そのサークルが主催となり市のホールで展示会が開催されました。展示出品8展が私も描いた水彩画となっております。私の「秋の新京成」と題した作品はF6号で線路と電車を中心にした風景画となっております。
御指導いただく先生は美術の教師を引退された先生でこの道50年の本格派、その絵は号6万円以上で市場取引されるプロです。先生からは「う〜ん味があるね〜伸びしろを感じる」とのあたたかいお言葉、それは今は下手だけど頑張ればうまくなりますよを大人の言葉で上手く現したお言葉でした。(この表現はくっちゃおと思いつきながら)、当番の日曜日、私も受付に待機しました。私の両サイドの水彩画は、それはそれは素晴らし作品で、右に見事な湖面を表した作品と、左ににじみを活かした華の作品の中かませ犬状態で展示されています。実際来客者はゆっくり絵を見て回りますが、私の両サイドの絵には立ち止まりませんが「秋の新京成」は1秒で移動する方々ばかりでした。中にはプツと吹き出す方もいて、いいアクセントになっていました。先生の言っていた、いい味とはこのことかなと感じながらも、初の展示会受付係の為、図々しくも私の作品近くに来た来訪者に作者と悟られず感想を聞きだしに向かいました。皆さん困った声で、いい味を感じると一言絞りだし、すぐに違う作品に移動します。いったいどんな味なんだ昆布かカツオかなど考えながら、3年後、号1万円です市場取引できる最初の1歩だといい聞かせました。ゴッホは亡くなってから評価をされました。私は生きていうちにいい味、グルタミン酸を出していきたい。